Chapter IV

次世代育成

彩の国女性研究者ネットワーク・研究機関訪問セミナー

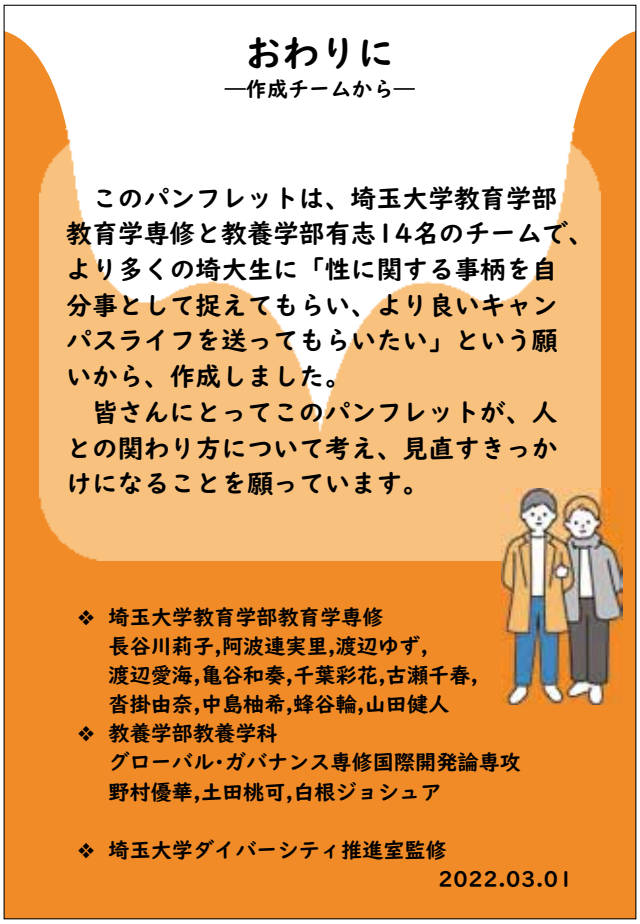
2022年３月15日（火）、2021年度彩の国女性研究者ネットワーク・研究機関訪問セミナーを、オンラインにて開催しました。今年度は理化学研究所、株式会社フェニックスエンジニアリングの２社を訪問しました。埼玉大学、芝浦工業大学、埼玉県立大学の学生約 25 名が参加しました。

教育学部・教養学部の学生有志が、性暴力防止啓発のためのパンフレット『ねぇこんな時、どうする？ 知らなきゃマズイ 愛と暴力の話』を作成しました！

2020年、内閣府が「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を関係府省庁会議で決定しました。それを受けて文科省は、国公私立大学長も含む、全国の教育関係各所宛てに、「性犯罪・性暴力対策」として、教育・啓発の強化に取り組むことを求めています。このパンフレットは、この動向にも合致する重要な取り組みです。

しかし、埼玉大学では、こうした通知が出る以前から、セクシュアル・ハラスメント、デートDVを含む性暴力防止の必要性を認識し、初年次教育として実施してきた「安心・安全な学生生活のために」と題する研究の中で、性の多様性、ジェンダー平等、デートDVの問題などについて取り上げてきました。

学びが保障されれば、大学生たちの多くは、そののリスクを避けることができるはずです。そして、その学びが学生同士の中で成立することはとてもステキなことです。今後、このパンフレットが活用されることを願っています！



おわりに
—作成チームから—

このパンフレットは、埼玉大学教育学部教育学専修と教養学部有志14名のチームで、より多くの埼大生に「性に関する事柄を自分事として捉えてもらい、より良いキャンパスライフを送ってもらいたい」という願いから、作成しました。

皆さんにとってこのパンフレットが、人との関わり方について考え、見直すきっかけになることを願っています。

❖ 埼玉大学教育学部教育学専修
長谷川莉子,阿波連実里,渡辺ゆず,
渡辺愛海,亀谷和奏,千葉彩花,古瀬千春,
沓掛由奈,中島柚希,蜂谷輪,山田健人
❖ 教養学部教養学科
グローバル・ガバナンス専修国際開発論専攻
野村優華,土田桃可,白根ジョシュア

❖ 埼玉大学ダイバーシティ推進室監修

2022.03.01

令和３年度 新入生対象
「安心・安全な学生生活のために」
オンデマンド講習会

目的

大学生活のスタートアップ講座として、大学生活で出会う友人と対等でお互いに尊重し合い、より良い人間関係を築くために、特に親密な交際関係に起こりうる暴力による支配関係「デートDV」を知る機会を提供し、フェアな人間関係の基礎スキルを身に付けさせる。自分の身や大切な人を守るため、そして安心・安全な関係を作り、充実した学生生活を過ごせることを目的とする。

主催

学生支援課、ダイバーシティ推進室
さいたま市男女共同参画推進センター

講師

AWARE（アウェア） 尾崎 弘美 氏

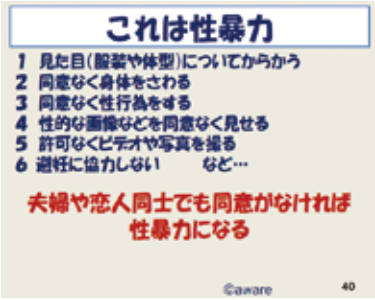
受講

令和３年９月１日～ 10 月 24 日
Web 学生システムにてアクセス
※オンラインのため全学部学生を対象

内容

① DV は力と支配…

②これは性暴力…



③自己決定による同意…

※ AWARE 資料を引用

受講後のアンケートまとめ

1 方法

Web 学生システムによる無記名回答方式

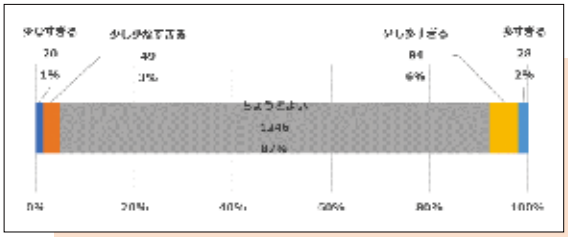
2 回答数

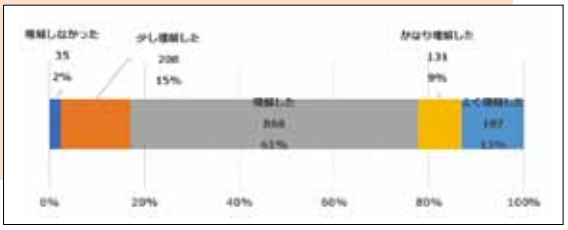
1,427 人

＊ 男性：895人　女性：501人　どちらでもない/答えたくない：31人

＊ 1年：570人　2年：336人　3年：247人　4年：243人　その他：31人

3 講習会内容の満足度・理解度





4 学生の感想等の一例

- 直接手で暴力を振るっていなかったとしても、暴力になることが分かりました。
- DV や暴力について、自分の考えていた定義よりも広くて驚いた。相手との性的同意に関して、「YES と言わなかったら NO」という考え方は性的同意に限らず大切で、もっとこの考え方は定着するべきだと思った。
- 男女が対等な関係で関わるために、「らしさ」を押し付けないことや個人を大切に、自己決定した意思を大切にしたうえでお互いに尊重すること、その上で同意することが重要だと理解できました。

ユース × ジェンダー プロジェクト @埼玉大学

本年度からの新たな事業として、「ユース × ジェンダー　プロジェクト@埼玉大学」を開始しました。この事業は、埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）との共催事業で、若い世代が考えるジェンダー平等について、学生が調査し、データを分析し、研究成果としてまとめ、埼玉県にジェンダー施策として提言するものです。今年度はほぼすべての学部の１年生～４年生まで、11 人の参加がありました。

10 月６日（水）にはオンラインで、一般社団法人ちゃぶ台返し女子アクションの戸谷知尋さんから、「埼大から変える！ジェンダー平等の社会のために」と題して、スタートアップ講演会が行われました。

Youth× ジェンダー　プロジェクトでは、参加学生がジェンダー問題の何に関心があるのか、どのような調査・研究を実施したいかについて、意見交換を行い、その後、関心の近い学生どうしがグループとなって調査を行い、提言を作りました。全５回のミーティングに加え、埼玉大学生を対象としたジェンダー平等な社会に向けたアンケート調査の実施、提言のための聞き取り調査を経て、2022 年２月６日に、埼玉県男女共同参画推進センターにて、提言発表会が行われました。

発表会では、①性の多様性、②ジェンダー教育の重要性、③女子学生の理系への進路選択の促進、④男性の育休取得、⑤パートナーシップ制度の導入の５つの研究課題について発表の後、提言書を、岩﨑寿美子　埼玉県民生活部県民共生局長に手渡しました。

このプロジェクトは、2022 年度も実施する予定です。

オンライン交流会・あつまれ！ひろばトーーーク ～ダイバーシティについて話そう～

埼玉大学基盤教育研究センター「さいだい交流ひろば」で、事業活動の一環として「あつまれ！ひろばトーーーク　～ダイバーシティについて話そう～」を2021年度に計4回（4月22日、6月24日、10月26日、12月9日）開催しました。

本企画では、ブレークアウトセッションで5人前後のグループになり、ダイバーシティに関することで参加者が気になっている話題について、話し合っていきます。埼大生のみでなく、埼大の教職員や地域の方も参加対象としており、毎回、職種、年齢、国籍の垣根を越えて意見交換が行われています。

過去4回で話し合われたテーマには、「外国籍の学生への配慮について」「みんなのトイレについて」「女性の社会進出について」「男女の格差について」「多様性とはなにか」「より多くの人が社会参画できるようにするためにはどうするべきか」「就職活動における多様性について」などがありました。ブレークアウトセッションでの話し合いの後には、各グループで出た意見を全員で共有します。そうすることで、同じテーマであってもグループによって全く異なる話し合いが展開されていることが分かるとともに、参加者が多様な価値観に触れることが出来ます。

参加者からは、「いろんな背景を持つ人たちと意見を共有できたので、新たな気づきがありました！」「学生だけでなく教員の方やダイバーシティ推進室の方も来てくれたのでまさにダイバーシティを感じた」といった声が聞かれました。

来年度も、内容やテーマを改善しながら本企画を開催し、年齢や職種の垣根を越えて、多様な意見に触れる機会としていきたいと思っています。みなさまのご参加をお待ちしております。

フライヤー

グループディスカッションでの内容を共有している様子

お気に入りのものを持って参加者で記念撮影

主催のさいだい交流ひろばについて

さいだい交流ひろばは、埼大生なら誰でも利用できるフリースペースです。学生が、学部、学年、国籍の異なる人や、地域の方々と交流できるよう、学生が主体となりイベントを企画しています。

大学構内にある木のぬくもりを感じられる小さな建物です。学年を越えた交流や、様々な学生企画が行われており、地域・ボランティア活動の中心地としても機能しています。

月・火・木曜日に開室しており、学生なら誰でも入室できます。初対面の学生同士での交流も盛んで、新たな友人関係やコミュニティどうしの輪をつなぐ場所になっています。

Chapter V

埼玉県地域のダイバーシティ研究環境実現

彩の国女性研究者ネットワークの活動

埼玉大学は埼玉県の女性研究者・技術者が相互に交流し、女性研究者・技術者の活躍を推進するために、埼玉県の５つの研究機関（環境科学国際センター、衛生研究所、産業技術 総合センター、農業技術研究センター、がんセンター臨床 腫瘍研究所）とともに、2017 年６月６日、「彩の国女性研究 者ネットワーク」を立ち上げました。

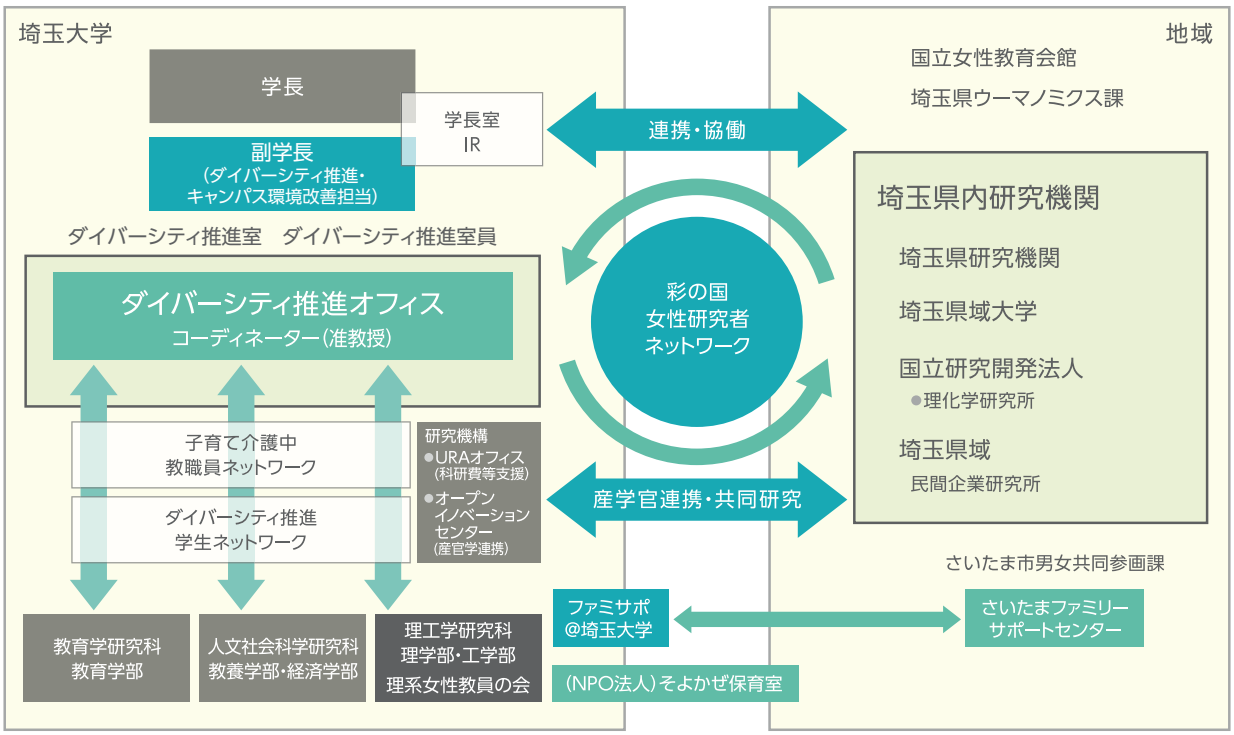
埼玉大学ではこの「彩の国女性研究者ネットワーク」を県内企業、研究機関、大学等に拡大し、女性研究者・技術者の活躍により、埼玉県地域全体のダイバーシティ推進を図り、多様な視点と発想による研究・技術開発のさらなる活性化を目指しています。また、女性 研究者・技術者や男女共同参画（ダイバーシティ推進）担当者の方々と共に、男女を問わず子育て・介護などのライフイベントの中にある研究者・技術者が働きやすい環境づくりに取り組み、さらに、このネットワークの活動を通して、研究者や技術者を目指す女子学生に多様なロールモデルやキャリアパスを示し、次世代研究者・技術者育成を促進しています。

本年度、本ネットワークに、埼玉医科大学が参画しました。2022 年３月１日現在、「彩の国女性研究者ネットワーク」には、22 機関（大学４機関、埼玉県内研究機関５機関、国立研究開発法人１機関、民間企業研究所 12 機関）が参画しており、活動を行っています。本ネットワークの活動として、2021 年 11 月 19 日（金）には、第５回彩の国女性研究者シンポジウム「With コロナ時代の働き方を考える――ワーク・ライフ支援制度の活用に向けて」を開催しました（本報告書 36 ページ掲載）。2022 年３月 15 日（火）に、研究機関訪問オンラインセミナーを実施しました。今年度は、理化学研究所、株式会社フェニックスエンジニアリングを訪問しました（本報告書 28 ページ掲載）。

【彩の国女性研究者ネットワーク参画機関】

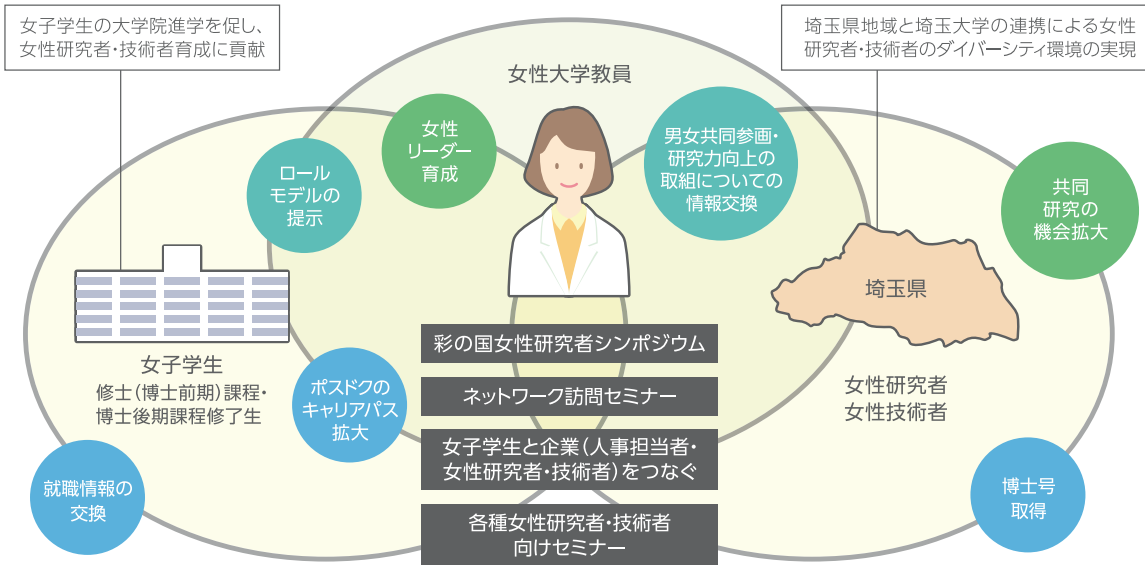
1　埼玉県環境科学国際センター
2　埼玉県衛生研究所
3　埼玉県産業技術総合センター
4　埼玉県農業技術研究センター
5　埼玉県立がんセンター
6　国立研究開発法人　理化学研究所
7　大正製薬（株）
8　マレリ株式会社
9　日本信号（株）
10　シチズン時計株式会社
11　埼玉県立大学
12　株式会社　井口一世
13　株式会社フェニックスエンジニアリング
14　株式会社タムロン
15　ボッシュ株式会社
16　日本ピストンリング株式会社
17　芝浦工業大学
18　サイデン化学株式会社　浦和工場
19　ポーライト株式会社
20　株式会社オリジン
21　埼玉医科大学
22　埼玉大学

彩の国女性研究者ネットワーク実施体制



彩の国女性研究者ネットワークによる取組

女性研究者・技術者の交流による活躍推進：女性研究者・技術者が働きやすい研究環境整備



彩の国女性研究者ネットワークを活かした女性研究者等のすそ野拡大

第５回
彩の国女性研究者ネットワークシンポジウム

日時 2021年11月19日（金）　**場所** オンライン（zoom）

11月19日（金）、「第５回彩の国女性研究者ネットワークシンポジウム」を開催しました※。今年度は「Withコロナ時代の働き方を考える――ワーク・ライフ支援制度の活用に向けて」をテーマに、オンラインでの開催ということもあり、本学教職員・学生を始め、彩の国女性研究者ネットワーク参画機関の方々、他大学、民間機構・公的機関の方々等、125名の方が参加されました。

開会挨拶をする坂井学長

坂井貴文学長の開会挨拶に続き、田代美江子副学長（ダイバーシティ推進・キャンパス環境改善担当）より、本シンポジウムの意義や当ネットワークの趣旨についてご説明いただきました。

基調講演では、「これからの働き方を考える－自律的なキャリアとワーク・ライフ・バランス」と題して、法政大学キャリアデザイン学部教授　武石　恵美子　氏にご登壇いただき、社会構造の変化やワーク・ライフ・バランス支援の変遷などについて説明があり、自身のキャリア形成のためにどのようにワーク・ライフ・バランス支援制度を活用するかといった視点が重要であることや、多様性の拡張によってより自律的なキャリア開発が必要になることについてお話しいただきました。

基調講演での武石氏

※　彩の国女性研究者ネットワークとは、ネットワーク参画機関が相互に協力・連携して、女性研究者・技術者が活躍しやすい環境づくりに寄与することを目的として、平成29年度に立ち上げたネットワークです。

パネルディスカッションの様子
（（写真上段・左から）金井氏、金子氏、武石氏、（写真中段・左から）吉村氏、齋藤氏、牧氏、（写真下段・左から）岡野氏、真石氏）

パネルディスカッションでは、株式会社井口一世生産技術部　齋藤梨奈氏、ボッシュ株式会社人事部門人事企画部ゼネラルマネージャー　金子高広氏、埼玉県立大学看護学科助教　吉村基宜氏、埼玉大学総務部人事課　牧ちひろ氏、同大学経済学部（金井ゼミ）　真石恵利氏･岡野しずき氏（発表順）にご登壇いただき､機関紹介やワーク・ライフ・バランス支援の取組み、ご自身の育児休業取得の体験などについてお話しいただきました。

引き続き、トークセッションが行われ、モデレーターの大学院人文社会科学研究科　金井郁教授からマルチスキルワーカーの育成方法、従業員の兼業・副業についての企業側のメリットや制度設計、育児休業を取得することによって自身のキャリアをどのように捉え直したかについてなど、各登壇者にご意見を伺いました。

シンポジウム終了後のアンケートでは、参加者からは「実際の育休取得者の話を聞けたり、様々な立場からの話が聞けて面白かった」「自立的なキャリアを築くために制度をどのようにしていくのか、一人一人が考えなければならないと感じた」といった感想が寄せられ、参加者の満足度の高いシンポジウムとなりました。

本シンポジウム開催にあたり彩の国女性研究者ネットワークの各機関の研究者・技術者の方々にご協力いただきました。

ご参加いただきました皆様、ご協力をいただきました皆様、誠にありがとうございました。

フライヤー

彩の国女性研究者ネットワーク
運営委員会・担当者連絡会

運営委員会

本ネットワークには「彩の国女性研究者ネットワーク運営委員会」を設置しており、事業計画や事業内容について審議をしています。２年任期のため、昨年度の学外委員の方々の任期が満了し、新たに４名の方が、学外委員に就任されました。

今年度の運営委員は下記の通りです。

彩の国女性研究者ネットワーク　運営委員（令和３年度）

敬称略

	名　前	所属機関
運営委員長	田　代　美江子	埼玉大学
運営副委員長	幅　崎　麻紀子	埼玉大学
運営委員	黒　川　秀　樹	埼玉大学
運営委員	荒　木　稚　子	埼玉大学
運営委員	日　原　由香子	埼玉大学
運営委員	鈴　木　啓　介	埼玉県産業技術総合センター
運営委員	岡　田　雄　二	埼玉県農業技術研究センター
運営委員	樫　本　恵津子	日本信号株式会社
運営委員	髙　塚　珠　里	シチズン時計株式会社

担当者連絡会

毎年、参画機関どうしの情報交換のため、「彩の国女性研究者ネットワーク担当者連絡会」を開催しています。今年度は、2021 年 11 月 19 日（金）にオンライン（ZOOM）にて開催しました。当日はネットワークの担当者 21 名が参加しました。田代埼玉大学副学長の挨拶の後、参加者の自己紹介がありました。続く、新規参画機関の承認後、事務局より、2020年度の活動報告及び 2021 年度の活動状況と今後の計画についての説明、質疑応答がありました。

その後、事前に各機関より収集した、本ネットワークにて共有を希望する課題について、意見交換を行いました。意見交換の中で出てきた主な意見は、下記の通りです。

①在宅勤務の制度化について

「在宅勤務をコロナ禍で暫定的に導入したが、育児、介護等以外の理由での承認が認められていないので、今後制度化に向けて検討する必要がある。現在はコロナ禍なので上限を設けていない。ネットワーク機関で制度化しているなら、参考に意見を伺い、今後の制度化に向けて参考にしたい。」との発言に対し、他機関より、「職種によるが、コロナ禍でリモートワークが進み、現在は、月 80%まで、業務上の影響がなければ、在宅勤務が認められている」等の情報提供がありました。

②女性管理職を増やす上での課題について

「人事担当として、制度、手当等どこまで従業員の気持ちに寄り添って人事制度を策定する等の悩みがある。働き方改革を含めて、ネットワーク各機関の制度やロールモデル等があったら、紹介してほしい」旨の発言に対し、「大学事務職員では、管理職となる層の女性の数が少なく、男性モデルの管理職並には、働けないと考えている女性が多いのが課題」、「製造業は、グローバル展開をしており、家事を行った後の夜に海外との会議に出席することもあり女性にとっては厳しい環境」等、各機関の抱える課題を共有しました。

③男性の育児休暇について

複数の機関より、「夫のキャリア・妻のキャリア・双方の子育てについての考え方を、研究者どうしの夫婦が対話形式で話すセミナーを実施する」、「男性職員を集めて育児をテーマにした座談会を開催したところ好評であった」等の好事例が共有されました。

④コロナによる大学生の就学スタイルの変化、採用側の変化について

コロナ禍になってから、生活スタイル、就活スタイルが変化している学生に向けてどのように働きかけをしていけば良いか採用担当として悩んでいるとの課題共有があり、大学関係者からは、「昨年は、対面授業をかなり減らしてオンラインで実施したが、今年は対面事業を増やした。」「学生アンケートを見ると満足度が大きく下がったということはなく、むしろ高くなった部分もあった。一番不足しているのが、学生同士の交流である。」等の状況が語られました。

企業からは、「適性検査を希望する学生が就職の選考の前に受け、分析結果を使用し、人事の採用担当とオンラインでフィードバック面談をする機会を設けている」等の事例の発表がありました。その方法は学生に好評で、採用担当のトークスキルの上昇にもつながっており、オンラインならではの新たな取組とのことです。

今後も各機関の担当者の皆さんとの情報交換・課題共有をしながら、シンポジウムやセミナーを企画して参ります。

Chapter VI

女子中高生の理系進路選択支援事業

彩の国で育もう、理工系女子の未来を！　彩の国から変えよう、理工系の未来を！

WISE-P
（Women in Science and Engineering Program）

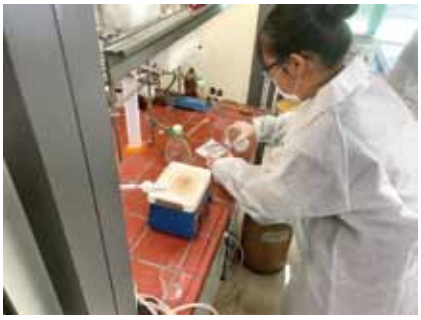
埼玉大学では、2021年度、「彩の国で育もう　理工学系女子の未来を！　彩の国から変えよう　理工学系の未来を」をスタートし、女子中高生の皆さんの理系への進路選択を支援しています。このプログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択を受けて、大正製薬株式会社を共同機関、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会を連携機関とし、地域の皆様のご協力のもとに進めています。このプログラムの目的は、女子中高生のみなさんが、科学技術への興味関心を高め、将来、科学技術イノベーションに関わる分野で活躍できるよう、また、保護者や社会一般の方々に、理工系分野での女性の活躍に理解を持っていただくことを促進することです。

埼玉大学は、地域と連携し、女子中高生の理工系進路選択エンカレッジの拠点（「彩の国理工系女子のためのエンカレッジ拠点」）として、女子中高生の皆さんが、理工系に進んでいくことをエンカレッジするプログラムを提供しています。

サイエンス体験スクール・ワークショップ　女子大学生と語ろう

- 2021年８月28日（土）、埼玉大学サイエンス体験サマースクールをオンラインで開催しました。当日は、緊急事態宣言期間中ということもあり、対面での実施からオンライン開催に変更しての実施となりましたが、埼玉県内外から23名の女子中学生の皆さんが参加しました。

- 2021年11月27日（土）・28日（日）の２日間、埼玉大学サイエンス体験オータムスクールをオンサイト（対面式）で開催しました。オータムスクールは、当初、10 月上旬に開催する予定でしたが、緊急事態宣言の解除が確定していなかったため、大事をとって、11月に延期した上での開催でした。当日は、埼玉県内外から17名の女子高校生の皆さんが参加しました。



ラボラトリー（研究室）見学

- 2021年12月27日（月）、本プログラムの共同機関の大正製薬株式会社にて、『製薬会社の研究者探訪～ web 紹介編～』と題し、オンラインで、研究の現場を訪問する「ラボ訪問」を開催しました。当日は、埼玉県内外から28名の中学生の皆さん、16名の高校生の皆さん、そして11名の保護者の皆さんが参加しました。
- 2022年３月26日（土）、女子中学生・高校生と保護者を対象に、「ラボ（研究室）訪問【埼玉大学編】」を、埼玉大学で開催し、女子中学生・高校生のみなさんが参加しました。また、今回、初めての試みとして、「保護者相談会・個別相談」を同時開催しました。

出前授業

2021年度の「出前授業」は、埼玉県内の中学校 11 校、高等学校４校で実施しました。出前授業のテーマは、理工学研究科、教育学部から、中学校向けに 21、高校向けに 42 が出揃いました。その中から、各学校が理科系科目の進行状況に合わせて、テーマを選びました。

授業の方法は様々で、講義のみならず、実験観察を行った授業もありました。学校側が希望する授業の方法は、１つの学年が体育館に集まり大人数で実施する方法、複数のテーマの授業を同時に行い、生徒が希望する授業を聴講する方法、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）クラスを対象に授業を行う方法など様々なため、本出前授業担当者と詳細に打ち合わせをし、各学校のニーズに合わせて授業を行いました。学校側では、学校玄関に出前授業を歓待する手作りのサインボードを作ったり、生徒が出前授業当日の進行を考えて準備する、授業後に生徒と懇談をする時間を設けるなど、様々な工夫がありました。

北 部

深谷市立南中学校
皆野町立皆野中学校

皆野町立皆野中学校

東 部

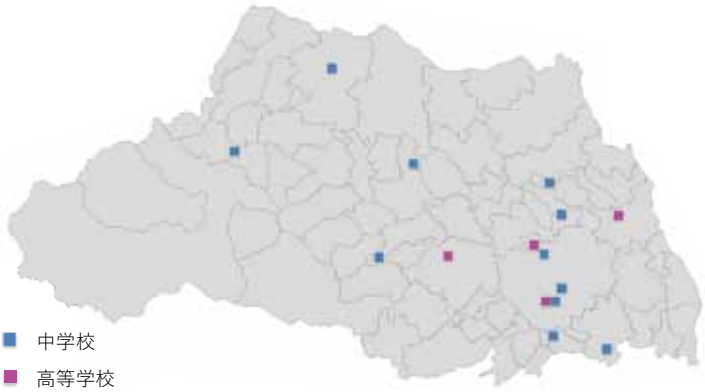
蓮田市立蓮田中学校
白岡市立白岡中学校

白岡市立白岡中学校

西 部

東松山市立北中学校
坂戸市立城山中学校

坂戸市立城山中学校



南 部

川口市立高等学校附属中学校
戸田市立笹目中学校

戸田市立笹目中学校

県 立

川越女子高等学校
春日部女子高等学校

埼玉県立春日部女子高等学校

埼玉県立川越女子高等学校

さいたま市

大宮北中学校
浦和中学校
本太中学校
市立浦和高等学校
大宮北高等学校

さいたま市立大宮北中学校

WISE-P　進路相談

- 理工系教員 16 名をアドバイザーとして、理工系の進路について、女子中高生、保護者、中高教員からの相談、情報提供などに応じています。理系の進学・進路、大学生活、研究生活、就職に関する相談など、理工系に進学する上での不安や悩みについて、ホームページの相談フォームから、相談を受け付けています。

WISE-P　ホームページ

- 本プログラムのホームページを開設しました。URL はこちらです。

https://park.saitama-u.ac.jp/~wise-p/

メディア等での掲載実績

- 本プログラムは、複数の新聞やテレビでとりあげられ、全国に配信されています。

増やそう理工系女性
全国の大学 取り組み本腰
「女子は文系」思い込みが障壁

東奥日報　2022 年 1 月 20 日

来たれ「理工女子」
志願者増へ取り組み本格化
埼玉大 中高生特化、出前授業も

埼玉新聞　2022 年 2 月 6 日

活動記録

年月日	活動内容
2017年　　～継続中	文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）に採択
2018年 4月～継続中	ダイバーシティ相談
2018年 4月～継続中	新規採用教職員に研究倫理eラーニング受講を義務付けて実施
2018年 4月～継続中	彩の国女性研究者ネットワーク参画機関訪問（オンライン・1回）
2019年 4月～継続中	国際共同研究スタート相談
2021年 4月～	令和3年度ファミリー・サポート補助事業実施
2021年 4月～	令和3年度病児保育利用補助事業実施
2021年 4月 1日	新任教職員研修でのダイバーシティ事業周知活動「ダイバーシティの推進について」「ハラスメントについて」
2021年 4月15日	彩の国女性研究者ネットワーク機関対象の登録事項調査の実施
2021年 4月19日	JST受託事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」採択
2021年 4月22日	さいだい交流ひろば「ダイバーシティについて話そう」開催（オンライン）
2021年 5月26日	第1回ダイバーシティ推進室会議（オンライン）
2021年 5月26日	第1回ダイバーシティ推進室研究補助制度採択者決定
2021年 5月28日	彩の国女性研究者ネットワーク参画促進のための機関訪問（オンライン）
2021年 6月～	With You さいたま「ユースプロジェクト」打合せ（2回：6月22日、9月7日）
2021年 6月 4日	「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（WISE-P）」WG会議（オンライン）
2021年 6月24日	さいだい交流ひろば「ダイバーシティについて話そう」開催（オンライン）
2021年 6月29日	「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（WISE-P）」WG会議（オンライン）
2021年 7月 1日	病児保育利用補助事業採択者決定（以降随時）
2021年 7月29日	WISE-P「サイエンス体験サマースクール」WG会議（オンライン）
2021年 8月 3日	「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」WG会議（オンライン）
2021年 8月25日	WISE-P「サイエンス体験サマースクール」WG会議（オンライン）
2021年 8月28日	WISE-P「サイエンス体験サマースクール」開催（オンライン）
2021年 9月～	「安心・安全な学生生活のために」講習会（オンデマンド形式）
2021年 9月～	WISE-P「大学教員による出前授業」開催（以降随時。中学校：11校、高校4校）
2021年 9月15日～ 9月22日	第2回ダイバーシティ推進室会議（メール会議）
2021年 9月29日	報道機関と埼玉大学との懇談会でのダイバーシティ事業広報活動
2021年10月 4日	第3回ダイバーシティ推進室会議（オンライン）
2021年10月26日	さいだい交流ひろば「ダイバーシティについて話そう」開催（オンライン）
2021年10月～	With You さいたま「ユースプロジェクト」ミーティング（5回）
2021年10月29日	職場環境づくりWG会議（オンライン）
2021年11月10日	WISE-P「サイエンス体験オータムスクール」WG会議（オンライン）
2021年11月19日	彩の国女性研究者ネットワーク担当者連絡会（オンライン）
2021年11月19日	彩の国女性研究者ネットワークシンポジウム（オンライン）開催
2021年11月19日	彩の国女性研究へネットワーク参画機関拡大（参画機関：埼玉医科大学）
2021年11月27日、28日	WISE-P「サイエンス体験オータムスクール」開催
2021年12月 9日	さいだい交流ひろば「ダイバーシティについて話そう」開催（オンライン）
2021年12月 9日	学生支援WG会議（オンライン）
2021年12月13日	防災・日本再生シンポジウム（オンライン）開催（共催：公立大学法人埼玉県立大学、埼玉医科大学、一般社団法人国立大学協会）
2021年12月27日	WISE-P「研究室を覗いてみよう！企業体験編」開催（オンライン）：大塚製薬株式会社
2022年 2月15日～ 2月21日	第4回ダイバーシティ推進室会議（メール会議）
2022年 3月 1日	第5回ダイバーシティ推進室会議（オンライン）
2022年 3月15日	彩の国女性研究者ネットワーク訪問セミナー（オンライン）開催：理化学研究所、フェニックスエンジニアリング株式会社
2022年 3月18日	「女子中高生の理系進路選択支援プログラム（WISE-P）」WG会議（オンライン）
2022年 3月26日	WISE-P「研究室を覗いてみよう！大学体験編」開催
2022年 3月30日	防災・日本再生シンポジウム開催報告書発行
2022年 3月30日	2021年度ダイバーシティ事業活動報告書発行
2022年 3月30日	2021年度WISE-P活動報告書発行

編集後記

今年度もダイバーシティ推進事業活動報告書を刊行することができました。多くの皆様にご協力いただきましたことを、心より感謝します。今年も、コロナによる緊急事態宣言が続き、先の見えない時期が続きましたが、１年を振り返ると、昨年度にも増して、アクティブに活動を行うことができました。来年度は、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（特色型）」の最終年度であり、当室がダイバーシティ推進センターとして、新たにスタートをする重要な年となります。皆様の力を結集しながら、ダイバーシティ環境の実現に向けた取組を進めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

編集委員を代表して　幅崎麻紀子

『2021年度　ダイバーシティ推進事業活動報告書』編集委員

田代美江子	Mieko Tashiro
幅崎麻紀子	Makiko Habazaki
牧　ちひろ	Chihiro Maki

科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（特色型）」

2021年度ダイバーシティ推進事業活動報告書

国立大学法人埼玉大学
ダイバーシティ推進室　ダイバーシティ推進オフィス

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255
TEL/FAX：048-767-4011（内線5185）
E-mail：Diversity-s@gr.saitama-u.ac.jp
http://park.saitama-u.ac.jp/~kyodo-sankaku/

発行：2022年3月

Saitama University
埼玉大学

埼玉大学マスコットキャラクター
メリンちゃん

埼玉大学ダイバーシティ推進室　ダイバーシティ推進オフィス
住所：埼玉県さいたま市桜区下大久保255
電話番号・ファクス：048-767-4011
メールアドレス：diversity-s@gr.saitama-u.ac.jp